

## 第8回 地域福祉部会 ～多世代による地域支え合い～ 摘録

**日 時**：平成 29 年 7 月 10 日（月） 18:00～20:00

**場 所**：区役所第 1 会議室

**出席委員**：中里部会長、川田委員長、青柳副委員長、老門（聡）委員、大久保委員、  
小田委員、砂川委員、椿委員、滝本委員、中村委員（10 名）

**欠席委員**：葛西委員、（1 名）

**資 料**：次第

資料 1 委員名簿

資料 2 第 6 期宮前区区民会議の進行イメージ

その他 地域福祉コンシェルジュの育成（中里部会長より）

### ■資料確認

#### 1. 議事

- (1) 取り組み提案の検討について
- (2) その他

#### 2. その他の連絡事項

今後の日程等の確認など

## 第8回 地域福祉部会 審議結果要点メモ

※各意見の詳細等は次ページ以降参照

### 地域福祉コンシェルジュ

- 役割…①地域福祉・地域包括ケアの普及・周知役  
②地域福祉へのつなぎ・案内役  
つなぎ先 = 福祉諸制度、町会・自治会・地域、情報など  
③地域福祉環境づくりへの貢献・ノウハウ共有  
例：カフェ・サロン等の拠点づくりなど  
※区民の立場から身近な地域で活動。無償ボランティアを基本とする。  
※まだ困っていない人（未病の方）も活動の対象とする
- しゅみ…①研修の開催と修了書の発行 ②情報交換等の場の設定  
※参考：宮前区防災推進員（資格とはしない）
- 担い手（なっていたきたい方）例  
既存の地域活動やカフェ・サロンの担い手など、徐々に拡げていく

### 研修会の企画

- 設 定：第2回「(仮称) 地域福祉コンシェルジュ構想推進講座」  
※フォーラムでの「認知症サポーター養成講座」を第1回と捉える
- テー マ：「(仮) 高齢者とお金」(高齢者の財産管理)  
※その他のテーマ候補…「介護」「民間とのコラボ」「子育て」
- 開催時期：9月下旬～10月上旬
- 講師候補：①宮前区安心センター（社協）スタッフ  
②宮地弁護士（土橋カフェ参加、土橋在住、事務所たまプラーザ）
- 内 容：①講師のお話・質疑応答  
②地域福祉コンシェルジュ構想説明（区民会議より）  
③休憩・お茶菓子サービス等  
※全体で2～3時間を想定
- 対 象：前回参加者、地域のサロンやカフェの担い手、町内会担い手など
- 広報募集：①チラシを作成 ②来てほしい人に直接声かけ
- 会 場：区役所会議室、市民館会議室など

### 今後の進め方（案・年内）

日程	会合名	内容
7月31日	第9回部会	企画や設定の内容決定 ①地域福祉コンシェルジュ構想 ②第2回研修会の企画
8月		第2回研修会ちらし作成・配布 参加者募集・声掛け等開始
9月1日	企画部会	企画説明
9月15日	第6回全体会	企画説明・事前広報
9月下旬～ 10月上旬	第2回研修会	「(仮) 高齢者とお金」(高齢者の財産管理) 老後の成年後見制度や安心センターなど
10月16日		第2回研修会ふりかえり 第3回研修会・福祉大会企画の検討？ 提案のまとめ
11月10日	企画部会	経過説明
12月1日	第7回全大会	提案内容(案)の発表・討議
12月3日	社会福祉大会	地域福祉コンシェルジュ構想の実践・検証 ※内容未定
年末		区長への提案

## 中里部会長 資料説明概要

- ・ 「地域福祉コンシェルジュ」の育成・研修を進める。前回の認知症サポーター養成講座は、その一環、第一弾と考える。
- ・ 資格ではなく、修了書の発行・修了者の情報交換の回の開催などの形で提案してはどうか。(参考：宮前区防災推進員)

※その他の内容は別紙資料参照

## 川田委員長 補足

- ・ 12月3日開催予定の宮前区福祉大会の中の「カフェの企画」を取り組みの実践・検証の場として活用したい。カフェやサロンの担い手を集めて、今後会議で企画等検討していく予定。

## ■意見交換■

砂川委員 「コンシェルジュ」という言葉の意味がまだ良くわかりません。

川田委員長・椿委員 「よろずうけたまわり係」という意味。元はホテルなどで、お客の様々な要望・疑問等に答えたり、案内する役割を果たす方です。

コンサルタント 「地域福祉コンシェルジュ」は「繋ぎ役」。全て面倒を見るのではなく、地域福祉の制度や専門家に繋いだり、紹介するイメージかと思えます。その上では、ある程度福祉に関する知識が必要になります。

椿委員 ホテル以外でも使われるようになってきた言葉です。一般にも、「いろいろ案内をしてくれる方」というイメージが浸透してきているかと思えます。

砂川委員 「地域包括支援センター」が、まだあまり一般に浸透しておらず、わからない人が多いように思います。

川田委員 地域包括支援センターの方にも、地域のカフェや地域福祉コンシェルジュの研修会に顔を出していただき、まだ福祉制度のお世話にならない方にも存在を知ってもらえると良い。

砂川委員 「私は関係ない」という方も多い。地域包括ケアの役割やしくみは、私も何回か聞いているが、なかなか全ては理解できない。

川田委員 チラシなどでも広報に努めていますが、福祉に実感のない人にはなかなか伝わっていない。だからこそ、職員が地域の方々と顔見知りになっておくことが重要かと思えます。

老門委員 民生委員が、困った方を地域包括支援センターに繋いでいるが、なかなかそのことが認識、周知されていません。

川田委員 民生委員は正に、「地域福祉コンシェルジュ」の役割を果たしている方々かと思います。民生委員以外の方にも地域福祉につなぐ役割を果たしていただければと思います。

老門委員 民生委員は様々な研修も受けています。

砂川委員 民生委員の方の電話番号というのは公開されているのでしょうか？

老門委員 私は自分の連絡先が書かれたカードを地域の方に渡したりしていません。ただ、地域包括支援センターに地域の民生委員の連絡先を聞いても、個人情報なので教えてくれません。

中村委員 馬絹地域では民生委員やそれぞれの担当地域等を記載した資料を配ったりしています。

大久保委員 私たちが今回検討しようとしているのは「要介護などになる前に、もう少し福祉について知っておこう」「知っている人を少しでも増やしていこう」という話ではないか。市の福祉計画の中でももうたわれている福祉情報の共有化に「地域福祉コンシェルジュ」が有効なのであれば、ぜひやるべきだ。

川田委員長 小地域単位での取り組みが進んでいないように思います。地域で一緒になって、地域の情報を共有しながら、カフェ・サロンを立ち上げたり、足りないところは行政にお願いしたり、先駆けてやりたいと考えています。

中里部会長 地域福祉の環境づくりも、地域福祉コンシェルジュの役割の一つかと思います。例えば地域福祉のサロンやカフェの核になっていただく。

川田委員長 担い手は、新しく公募するのではなく、今、地域でカフェやサロンを開いている方々をお誘いする形が良いのかなと考えています。そうした方にご意見を伺いながら、区民会議とコラボする形で、12月の福祉大会の場で何か検証ができればと思います。

中村委員 社協の支部会なども福祉大会には参加しています。

川田委員長 子どもから高齢者まで参加する大きな大会です。市民館を全館借り切って開催します。

中村委員 宮前区にカフェやサロンはどのくらいあるのでしょうか？

川田委員長 特に向ヶ丘地区では、民生委員の方などでなく、一般の方が小さくやっているところも区内には結構あります。

老門委員 私たちの地域では、地域や集合団地などでやっている他、どうしても出て来られない方の自宅に昔からの親しい友人・知人が訪問して開催する「出前会議」「出前麻雀」などの取り組みもあります。いろいろな方がいろいろ

るな取り組みに関わっていただけると良いと思います。

川田委員 カフェを拠点にいろいろな方が出入りすることで、新しいつながりや取り組みが生まれる。拠点づくりが本当に大事です。町内会・自治会と繋がる必要があります。

中村委員 第三地区社協で4月から「カフェももか」を立上げましたが最初は身内ばかり10人くらいの参加しかありませんでした。そこでチラシを配るなど、広報に努めています。

青柳委員 認知症カフェのリストは見た事があります。

川田委員 認知症カフェのリストには、例えばゆ〜ずカフェのような、コミュニティカフェは掲載されていません。根付くまである程度時間はかかります。焦らずに進める必要があります。そこに行けば、何か教えてくれるような場になれば良いと思います。

中里部会長 地域福祉コンシェルジュで、カフェ運営のノウハウなど情報交換ができると思います。

小田委員 カフェや食事会、高齢者のたまり場が区内には既にたくさんあり、私もボランティアでレクリエーションなど頼まれることがあります。また、今回の提案は認知症の人だけが対象ではありません。例えば未病、まだ元気だけど、先がちょっと心配な方も対象になると思います。長く健康が維持できるように支援していくことも重要です。

大塚町会の福祉部では、電球交換や水道蛇口の修理など生活上の小さな困り事の対応の他、町内会館でカラオケや囲碁の集まりを実施し、楽しんでいます。公園体操もあります。社協では自分の特技、趣味を申請してボランティア登録をいただき、支援や仲間が必要な方とのマッチングをしています。老人いこいの家で開催するミニデーやデイサービスに、民生委員やボランティア、地域包括ケアセンターの職員が来て、健康体操の体験やレクリエーション、転倒防止や振込詐欺防止などの講座を開催する例もあります。長尾住宅での食事会では、認知症の方にも声かけしていますが、なかなか参加が得られないという悩みがあるそうです。五所塚で、個人宅を開放し、元気な高齢者が集まって食事や交流をしている例も聞きました。銀行や農協などで、職員が認知症サポーター講座修了者のオレンジリングを首から下げている例もあります。地域で高齢者がどんな状況にあり、どんな助けが必要か、把握し、進められている多々の取り組みがあります。きちんとした提案でないと、地域の足をひっぱりかねません。

市民館で、いくつかのグループが交代で運営しているカフェがありますが、グループによって内容が異なります。私が行った時には、成年後見制度についての講義もしており、「よりそいノート」の紹介や販売も行われていました。すでに私たちが考えているような講座も取り入れられています。区民会議として何ができるのか、私もなかなか見えていない面があります。

老門委員 土橋地域でも様々な取り組みがありますが、食事会など制度的に老人クラブなどの会員でないと参加できないものもあります。土橋カフェは会員でなくても、よその地域でも、誰でも来て良い形にしています。サポーターを育て、「少しおかしいのではないかしら」という方とつながり、地域の活動につなぐことが大切です。

大久保委員 どこにどんな風に困った人がいるかということは、全て知らなくても良いのではないかと。困った時にどこに行けばよいのか、知っておいてもらえれば良いのではないかと。

老門委員 体操も 5 会場くらいで開催しており、誰でも来て良い形になっています。「動きがおかしいかな」と思う方がいたら、声をかけたり、他の場にもつなぐようにしています。

大久保委員 どこまでできれば、「福祉コンシェルジュ」として一人前なのか。今期だけでそこまではいけないとしても、目指す姿を目標として設定して、必要なものとスケジュールを決めたい。その中で今期はここまでやるいう事が見えれば良いだろう。

川田委員長 小地域単位で、誰でも出入りできる場があることが重要です。ただ地域差があるのが現状で、そこに「地域コンシェルジュ」を設けて、自治会と協力し合う形になれば、地域福祉が推進しやすくなるのではないかと。

市民館のカフェは、市民館の支援を受けながら運営しており、いずれ自立しなければならぬという課題があります。

大久保委員 福祉は非常に範囲が広いです。

椿委員 中学校、高校生世代やその保護者も悩みを抱えていて、相談先がわからない例があります。学校のスクールカウンセラーには言い難かったり、地域のたまり場には入りにくかったりします。地域の様々な方と、いろいろな形で交流することによって、居場所や相談場所ができれば、良いと思います。

大久保委員 一人で一から百までを行う必要はなく、コンシェルジュの中でも「こういう分野に強い人」などあって良いのではないかと。ただ全体として、

福祉の中でどんな分野をまかない、どんなニーズに応えられるかはある程度整理が必要だ。

「福祉コンシェルジュ」という言葉は実はすでにあり、兵庫県の三木市などの取り組みや、公明党が党外活動としてやっているものなどがあるようだ。

コンサルタント 実は私も少し調べました。まず、「福祉コンシェルジュ」で、「地域」はついていません。三木市の取り組みは、行政が、福祉に関する諸制度や窓口を案内する役割を持つ職員を、役所内に配置するものです。この部会のこれまでの検討では、地域で、住民の立場から活動するという点で異なり、そこが重要かと思えます。

「地域コンシェルジュ」を育てる研修の第2回をどんな内容で企画するのか。年度内に講座を開くとしたら、あと1回か2回が限度かと思えます。

中里部会長 今、子育てまで間口を広げるのではなく、高齢者や認知症をとっかかりにし、そこから考えていけると良いと思えます。

事務局 小田委員から様々な事例の紹介がありました。優良な取り組み・活動事例を取り上げ、そのノウハウなどから、地域の他の取り組みを引き上げていく方向性も考えられます。取り組みに関わる方同士の連携や情報交換も広がりそうです。

川田委員 地域活性部会で検討しているママさんの作品の販売や発表などの取り組みとの連携も考えられるのではないかと。

中村委員 いろいろなお客さん、若い世代の呼び込みにもつながりそうですね。

川田委員長 地域カフェ・サロンに関する情報交換の場は一度開催されています。まず高齢者から考える方が良いと思えます。例えば成年後見制度はまず知っておいてもらいたいです。

老門委員 まず見守り支援センターを知っておいてほしいです。一人暮らしの方が急に具合が悪くなった場合など、民生委員ではお金の管理などの面で手が出せないことがあります。

コンサルタント 企画タイトルとして「地域包括支援センターを知ろう」とか、「成年後見人制度を知ろう」などではあまり魅力的でないのではないかと。例えば「高齢者とお金」とテーマを設定し、それと絡めた事例や成年後見人制度などの紹介ができると良いのではないかと。テーマに関わる施設や専門家の方にお話しいただく事で、こういう時にはここに繋がれば、連絡すれば、この制度を利用すればよいのだなと認知してもらいやすい形ができると思えます。



参加いただく方に、地域福祉コンシェルジュの構想や目指す姿、みなさんになっていただきたい事を伝えていくことも重要です。今回と次回の部会で企画を固めたいところです。

川田委員長 いつ頃なのか、平日なのか、週末なのか。明日、福祉大会のカフェの打合せもあります。早めに決めることが重要です。

中里部会長 講師やターゲットにもよりますね。テーマは「高齢者とお金」が良いと思います。

中村委員 良いですね。ひきつけられます。

老門委員 土橋カフェにいらっしゃっている弁護士さんは、毎回のように認知症になった母親の預金の事とか、相続のことなど、お金の絡んだ相談を受けているようです。

また、同じ先生の講座でも呼びかけ方によって参加人数が全然違うことがあります。

滝本委員 そこにもノウハウがありますね。そういう雑談・情報交換ができると良いかもしれません。例えば同じ先生・内容でも、「護身術」と銘打つかどうかで人気は全く違った話を聞いたことがあります。土橋カフェでは民間スポーツクラブの方が「20分でできる体操」などやられていました。そういったコラボの方法なども聞いてみたいです。ヒント集のような形で整理ができると良いかもしれません。

中里部会長 「介護」をテーマに、身内が突然要介護になった方の話や対応例を伺っても良いでしょう。

椿委員 私の世代は、介護の問題が非常に気になるところです。もし親が突然介護になったら、どこに相談すればよいのか、わたしもよくわからない面があります。タイトルのつけかたによっては、魅力があると思います。

砂川委員 認知症の方は日によって、状態や調子が違うことも多く、非常に悩んでおられます。

老門委員 認知症は早めに診察・診断が受けられると、対策もできるのですが、本人や家族が認めず、連れて行くまでが難しいケースがあります。

青柳委員 「私が病院に行くのについてきて」と言って、連れて行くと聞いたことがあります。

小田委員 男性の方などはプライドが邪魔して、周囲のアドバイスを受け入れられない例もあります。地域にカフェやサロンがあり、顔見知り同士の雑談

からつなげられると、助けてもらう気持ちにもなりやすいと思います。

中村委員 民生委員の経験が長いので、本当に様々な例を見てきました。地域包括の方とも連携し、比較的うまく対処していると思いますが、ただ、お金の事だけはうかつに関わってはいけなないと、よく聞いています。

小田委員 「高齢者をめぐる金銭問題」は良いテーマだと思います。例えば成年後見人制度や遺言について砕けたお話ができる講師の方に来ていただいて、日常に必要な知識や、疑問を伺える形が良いと思います。

川田委員 司法書士と行政書士の資格を持っていらっしゃる方なら、一人心当たりがあります。

小田委員 大塚町会で弁護士の方からお話を聞いたことがあります。一人暮らしの方はお金に不安を持っていらっしゃる方も多いと思います。

コンサルタント 公的な施設の方にどなたか来ていただくとしたら、どこの方が良いのでしょうか。

川田委員長・老門委員 社協の宮前区安心センターの方が良いと思います。

老門委員 土橋カフェに来ていただいている弁護士さんも良いと思います。先日、お話もいただいたのですが、非常に好評でした。お話が上手です。宮地さんという方で土橋在住、事務所はたまプラーザにあります。

コンサルタント お一人の持ち時間をどのくらいにするかによりますが、あまりこの人もこの人もではなく、何人かに絞りたいところです。

青柳委員・中村委員 質疑応答の時間もぜひ持ちたいところです。

川田委員長 安心センターでは日常生活支援事業として、例えば体は元気だが、足が弱くて銀行に行けない方の講座手続きを代理で行うなどしています。

老門委員 安心センターの支援を受けるには審査があります。その内容や条件なども知りたいです。定期預金があったことで、話が進みにくく、申請が1か月延びてしまった例がありました。そうした条件を事前に知っていれば、もっと良いアドバイスができたと感じました。

コンサルタント 例えば安心センターの方と、土橋カフェにいらしている宮地弁護士さんを第一候補にする。その他地域福祉コンシェルジュ構想について、区民会議から説明する時間を持つという設定でいかがでしょうか。全体で2時間程度の講座でしょうか？3時間程度で一度休憩を入れてカフェサービスをして良いかもしれません。

老門委員 弁護士の方の都合はいつが良いのか聞いてみないとわかりませんが、

毎月第一水曜日に開催している土橋カフェには毎回いらしてくださっています。

川田委員長 企画が固まったら、チラシをつくって事前広報もしっかりしたいですね。

コンサルタント チラシの配布、参加者募集の期間は1か月くらいは欲しいところです。例えば次回、7月31日の部会で企画を固め、チラシを作成する。

川田委員長 地域でカフェやサロンをやっている方々の予定は早めに抑えたいです。数か月先の予定まで組んでいる方もいらっしゃいます。

大久保委員 3時間講座だと平日夜の開催は難しいと思います。

老門委員 宮地弁護士さんには次回までになんとかご都合を伺ってみたいと思います。

川田委員 町連の方で参加者として来ていただきたい方もいます。

コンサルタント 広く募集するというよりは、来てくれそうな方、来てほしい方に直接声をかけるイメージで良いでしょうか。

※この後、ターゲットなどを踏まえて日時や設定を検討した結果、9月下旬から10月上旬を開催目標とした。